

2021 年第 3 回 IEEE 東京支部理事会 議事録

日 時：2021 年 9 月 28 日(火) 15:00～17:00

場 所：住友電気工業株式会社 東京本社 ホール

出席者：中野 Chair、重松 Secretary、前原 Treasurer

坂東 COC Chair、粕川 FNC Chair、中村(守)NC Vice Chair、

菅野 TPC (Vice) Chair、津村 PC Chair、中村(聡)SAC Chair、鈴木 HC Chair、

奥村理事、今井 LMAG Chair、Chaki YP Chair、稲森 WIE Chair、

徳田 Past Chair、滝嶋 Past Secretary、羽渕 Past Treasurer

オブザーバ：西宮 SIGHT IEEE Tokyo Section Chair、Japan Office 百武氏、梶川氏
事務局、幹事会社事務担当

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 【審議】 (資料 1)
2. 2021-22 東京支部理事会構成 【審議】 (資料 2)
3. Japan Council 理事会(2021 年第 2 回)報告 (資料 3)
4. 2021 年中間会計報告 (資料 4)
5. 委員会活動報告 (資料 5)
 - ・ Chapter Operations Committee (資料 5-1)
 - ・ Fellow Nominations Committee (資料 5-2)
 - ・ Membership Development Committee (資料 5-3)
 - ・ Technical Program Committee (資料 5-4)
 - ・ Publications Committee (資料 5-5)
 - ・ Student Activities Committee (資料 5-6)
 - ・ History Committee (資料 5-7)

質疑応答 (議題 1～5)

6. Affinity Group 活動報告 (資料 6)
 - ・ Life Member (資料 6-1)
 - ・ Young Professionals (資料 6-2)
 - ・ Women in Engineering (資料 6-3)

質疑応答 (議題 6)

7. その他 (資料 7)
 - ・ SIGHT 報告 (資料 7-1)
 - ・ [参考] Region10 からのメール連絡一覧 (資料 7-2)

・東京支部の25周年記念イベントについて
質疑応答（議題7）

（資料なし）

議事：

0. Chairのご挨拶

Chairより開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認【審議→承認】

（資料1）

Secretaryから、前回理事会（2021年6月開催）の議事録について説明があり、審議の結果、異議なく承認された。

2. 2021-22 東京支部理事会構成【審議→承認】

（資料2）

Secretaryから、2021-2022年の東京支部理事会構成メンバー変更案が紹介された。TPCの桧垣Chairが退任、菅野Vice ChairがChairに就任、松尾SecretaryがVice Chairに就任、新たにNICTの松本様がSecretaryに就任する各案について審議の結果、異議なく承認された。

3. Japan Council 理事会(2021年第2回)報告

（資料3）

Secretaryから報告があった。

札幌支部は10/30にMAW、翌日31日にはSYWLのイベントを開催する。東京支部は、シニア記念メダルとピンバッチの発送が完了した。他の支部からピンバッチの製作依頼があった際は東京支部と同用途での活用を条件としており、依頼の際はSecretaryまで連絡が来る。LMAGがAchievement Awardに選出された。

COCはChapter支援費申請とAward申請をそれぞれオンライン化し、支部移行に関してはまずは東京支部から行うため今後議論をしてゆく予定。SACはマンガプロットコンテストを実施し、複数の応募があった。LRSCはFellow希望者向けにWebinarを10月と12月に開催する。Life Memberの中でSenior Member昇格を促す運動も企画している。

4. 2021年中間会計報告

（資料4）

Treasurerから報告があった。8月末までの中間会計報告について、収入の部は各種リベートおよびセクションアセスメントがメインとなった。ファンドに関してはLMAGでIEEE本部より表彰を受けたため、賞金を受け取る予定となっている。支出については、総会等の運営費用、広告費、LMAG活動費などは順調に推移をしている予算管理の推移に関して、現状の実績は20%ほどとなりいまだに未執行のものが多い状況なので、今後ぜひとも活動をお願いしたい。

5. 委員会活動報告

(資料 5)

・ Chapter Operations Committee

(資料 5-1)

COC Chair から報告があった。TCS の内容について承認を行った。

前回理事会において「COC でどの程度、Chapter の活動を把握しているのか」と質問があったが、その後、JC COC の全体会議で、Chapter の活動が把握でき、予算の詳細で主だったものは Award に関する支援費と会議支援であることが理解できた。今後 Chapter 支援費の管理を Section に移行していくにあたり、電子申請の利便性の確認が取れたため、改めて実施方法を Chapter および Section に展開し、具体的な施策に移りたい。

・ Fellow Nominations Committee

(資料 5-2)

FNC Chair から報告があった。企業および研究機関の窓口担当者と連絡をとり、Fellow や Senior Member 増強に関する協力依頼についての進捗を確認した。増強に向けてのトピックスとして、ある企業では会社の取組みとしてホームページで Fellow メンバーの对外公表をし、IEEE の Fellow を目指すウェビナー等を社内で周知している

・ Membership Development Committee

(資料 5-3)

MD Chair の代理として、Secretary から説明があった。

東京支部のアクティブメンバーは前年同月比で減少。Senior Member の昇格者数は今年 6 月審査の分までで 26 名となっている。活動報告として、東京 Bulletin にピンバッジ贈呈の記事を掲載、会員資格自動更新のお知らせも併せて掲載した。

今後は、IEEE 会員特典の周知とリマインドを掲載予定。Senior Member 昇格促進のメダル製作について、次の第 3 回 JC 理事会にてメダルの個数を各支部より報告いただく予定となっている。10 月には Senior Member 昇格要件と申請方法を紹介し、Senior Member 昇格が Fellow になるための必要条件である内容のメールを一斉配信予定。

・ Technical Program Committee

(資料 5-4)

TPC Chair から報告があった。本理事会で承認があった通り、TPC の役員体制が変更となった。期間は本日理事会 (2021/9/28) から 2022/12/31 までとなる。

活動報告として、第 4 回および第 5 回講演会(LMAG 主催)をおこなった。第 4 回の講演の中では、若手の研究者に向けて IEEE Fellow の紹介もしていただいた。今年の活動は、講演会を 3 回予定している。

・ Publications Committee

(資料 5-5)

PC Chair から報告があった。東京 Bulletin No132-134 を発行し、年内にあと 2 回発行を予定している。掲載内容は既に決めているが、積極的な寄稿をお願いしたい。JC のホームページ内にある「Senior Member の申請方法」の更新にあたり、JC MD Coordinator を通じて各支部でも Senior Member 申請ページを更新するよう依頼をしている。R10 News Letter の投稿は、主に JC EA 1 周年について、LMAG のマイルストーン記念講演会、東京支部 LMAG から第 6 回講演会についてなど。

JC ホームページ (Web サーバー) を利用している複数の支部からサーバーに最新のプラグイン導入の要望があったが、サーバー環境調査を進めるなかでサーバーのスク립ト言語が古いという問題が浮上し、HP 保守業者に改善方法の検討および調査を依頼している。

今後は費用とスケジュールに合意後、東京支部と JC ホームページでテスト環境を使って動作確認、問題がなければ他の支部にて確認した後スク립ト言語のバージョンアップを行う。予算は 2020 年第 4 回理事会にて計上された作業委託費を使用予定。

・ Student Activities Committee

(資料 5-6)

SAC Chair から報告があった。電気通信大学 SB が 6 月末に Latex 講座を実施し、電気通信大学の学生を含めた初心者を対象に、オンラインエディタを用いたレポート作成についての動画を公開した。東京電機大学 SB の勧誘会は 11 月に実施を予定している。

今後は、東京理科大学にて講演会、東京工業大学で勉強会、電気通信大学で研究室配属相談会やスライド書き方講座等を実施予定。IEEE TOWERS は 11/13 にオンラインで開催される。Student Paper Contest や TOWERS の参加希望者について Seoul Section から未だに返答をもらえていない状況である。

・ History Committee

(資料 5-7)

HC Chair から報告があった。マイルストーン 7 件の申請準備状況について、1 件目は申請書作成中である。2,3 件目は最終的な申請書が未提出で関係者を介してプッシュ中。4 件目は申請書が完成しているが、最終的なプロポーザルは出ていない状況である。申請を検討しているものが 5 件目から 7 件目の合計 3 つとなり、東京支部としても推薦書の作成サポートをする予定である。

他支部についても熱心にプロポーザルを出しているものが複数あり、名古屋支部からは 1 件受賞が決定している。JC HC 委員会は長崎で開催予定だったが、緊急事態宣言が延長されたためオンラインにて開催となった。

■ 質疑応答 (議題 1~5)

4. 2021 年中間会計報告 (資料 4) について

Past Secretary : 支出において総会運営費用やカウンスルへの拠出金等は現時点で確定できるため、予測数値は当初予算額ではなく、8 月末時点の実績値にしてはどうか。

Treasurer : 8 月末で確定なのでそのように修正する。

Past Secretary : 10 月から 12 月の間で大きな支出見込みがあるか。

Treasurer : 11 月にキャリア構築技術イベント、LMAG、SB、YP、WIE の交流会、TENCON 派遣費用等の大きなイベントが予定されているため大きく跳ね上がる予定。執行の状況は十分ではないので具体的に執行して頂くようエンカレッジしていきたい。

Past Secretary : 予算の有効活用の意味でも、現時点で執行されないと見込まれる予算の把握と、他の名目への振り分けを積極的に行ってはどうか。

5. 委員会活動報告 (資料 5)

・ Chapter Operations Committee (資料 5-1)について

Past Secretary : Chapter 支援費の Section 移行については 2021 年度に実施し、11 月から具体的に動き出す予定なのか。

COC Chair : 実際に動き出すのは次年度から。11 月からは電子申請方法等の説明を含めた相談の場を設けていきたい。

Secretary : Section 移行は東京支部からまず始めるのが妥当と JC 理事会で話があったが、JC COC Chair からは話が来ているか。

COC Chair : 話はある具体的な相談はこれからしていく。

・ **Fellow Nominations Committee (資料 5-2) について** **Secretary** : Fellow 申請の要点について OB から話をいただくような場を設ける計画をしている件について、具体的にはどのようなことをするのか。

FNC Chair : 申請書について詳細なポイントや書き方等を過去数名の Fellow 昇格者に指南してもらおうと考えている。時期については、JC のアクティビティに合わせるのも一案だが、メ切の 3 月末を考慮し、12 月か 1 月で想定をしている。また、各企業や研究機関の窓口になっている人に対象者を絞っていただき、それから徐々に広げていくのも一つのアイデアである。残念な点は、明らかに良い仕事をしている方でも業務多忙等で対応ができない点。そのような方々をサポートする活動も別途考えていきたい。

HC Chair : ある企業では、IEEE Fellow 懇談会を年に 1 回実施しており、次の Fellow は誰を推薦するか等のディスカッションを行っている。過去には、Fellow に昇格した方には社内で記念品を贈呈する等の取組みをおこなっていた。他の企業にも参考にしていきたい。

FNC Chair : 上手く継続できるよう努め、Fellow 懇談会には各企業の窓口担当も呼んでリンクした活動ができれば良いと考えている。

・ Membership Development Committee (資料 5-3)について

Past Secretary : Senior Member の数は年間で 50-60 人程度になれば良いという感触がある。全体の会員数獲得という観点では、JC の方に「IEEE 会員生の声」と題して IEEE の良い点や入会してできる点などを紹介しているパンフレット等が公開されているため、MD の活動でも活用して欲しい。

Secretary : 50-60 人程度が適正という根拠は何か。

Past Secretary : 東京支部での Fellow 昇格数の目標を年間 10 人程度に増やしたいとの考えがあることと、他の支部や国の Fellow と Senior Member の比率が 1 : 5 もしくは 1 : 6 であることが根拠となっている。

・ Publications Committee (資料 5-5)について

Past Secretary : Pubcom は JC のホームページ管理も担当している観点で、「IEEE 会員生の声」の英語ページが未だ未整備であるため、改善を考えていただきたい。ホームページ改善の予算の金額は東京支部のみもしくは JC を含めてなのか。

Secretary : 根幹のスク립ト言語をバージョンアップすると、他の支部も少なからず影響を受けることになる。これを考えると基本的な負担は JC で行いたい、昨年の理事会で作業費の予算はどこで立てられたのか、経緯が知りたい。

Past Secretary : 昨年は東京支部メインで予算立てをする話だったと思われるが、その後の検討で各支部全般に影響が及ぶのであれば、過去の経緯とは別に増強の内容に応じて決め直して良いのではないか。

・ Nomination Committee (議題に無し) について

Past Secretary : 次期役員のリネーション手続きについて。次期役員選出のスタートが遅れてしまうと、候補者への交渉や手続き等が慌ただしくなってしまう。前回は理事会メンバーを決める際にメール審議となってしまったケースもあったため、今回の第 4 回理事会の際にでも、NC のスケジュール等を提示し、情報共有を早めに行うと多少余裕が出てくる。

NC Vice Chair : NC Chair と話し合う。

6. Affinity Group 活動報告

(資料 6)

・ Life Member

(資料 6-1)

LMAG Chair から報告があった。役員会では、Achievement Award についての内容が議題の中心となった。R10 Life Member outstanding volunteer award は残念ながら通らず、R10 LMAG Chair から東北アジア LMAG ラウンドテーブル (仮称) への応募を提案頂き、来年に応募することとした。Achievement Award の受賞セレモニーは 12/10 11:00-11:30 で決定。現地 (機械振興会館) とオンラインのハイブリッド形式で開催し、

パーティも予定。News Letter は 9/1 に発行し、会員サービスとして仙台支部 LMAG と共催して講演会（参加者 200 人程）を実施した。ペンディングとなっているイブニングサロン、見学会については、緊急事態宣言が解除されたため 11 月か 12 月からスタートをしていきたい。

・ Young Professionals

(資料 6-2)

YP Chair から報告があった。8/21 に IEEE 東京 YP アイデアコンテスト 2021 を開催。このコンテストは SDG をテーマにしており、大学生や高等専門学校の学生へ参加を呼び掛けた。結果、6 チームから参加となり、R10 Past Director、LMAG Chair、Past Secretary に審査員を務めて頂いた。

どのチームも非常に有意義な発表内容で、入賞した上位 3 チームには賞金と表彰状がそれぞれ授与された。また、IEEE Japan Office と連携してすべての参加者へ努力を称えるためギフトが送られた。

IEEE R10 Sparklers Participation にも参加した。東京支部 YP が他 Section の YP に活動を紹介し、活動内容や取り組み、それに対するフィードバックおよび新しいアイデアを受け取ることができた非常に有意義な機会であった。本イベントは、Secretary から紹介して頂いたものであり、感謝している。

YP radio については、今年初めより継続的に行うことができている、既に 3 回目の実施となった。講演者のキャリアや活動をテーマにした話は、参加者にとってのモチベーションに繋がった。YP radio と同様にオンライン勉強会も行い、機械学習とロボット工学に関するテーマで開催された。

・ Women in Engineering

(資料 6-3)

WIE Chair から報告があった。国際女性エンジニアデー Online Coffee Break を開催し、参加者は 15 人だった。記念品も製作し、次に行う WIE シンポジウムでも配布予定となっている。Engineer Spotlight については WIE も共催し、ジェンダーをテーマにした内容で非常に充実しており、モチベーションが上がったメンバーも多かった。今後の予定として、WIE2021 を 11/6 に東京信越 WIE が中心となって行い、基調講演と技術講演を予定している。これから広報を開始するので是非周囲への声掛けやご参加をお願いしたい。

■ 質疑応答（議題 6）

・ Women in Engineering (資料 6-3)について

Secretary : 今回の Engineer Spotlight のテーマはジェンダー関係だが、こういったテ

ーマは今回が初なのか。

WIE Chair：今回のような深い話のテーマは初であり、企画自体は EA が主催、WIE は共催した。

・ Graduate Scholarships について（議題に無し）

FNC Chair： Graduate Scholarships について。有資格者がたくさんいると思われるが、日本からの応募がゼロである。今後は是非、積極的にアプライするようお願いしたい。

Chair： Graduate Scholarships はフォトニクスソサイエティの Graduate Award で国際会議の参加を補助するタイプのものだと思われるが、今は研究費で旅費を出せるように変わってから Award を取りにいくインセンティブが小さくなった印象がある。

Chair： IEEE の Award は申請はすべて英語。国際基準で評価されるものとなるので、様々な賞がある中でもワンランク上に思える。もっと周知してエンカレッジしてあげる仕組みを作りたい。

Secretary： Graduate Scholarships は会員であることが必須条件。まずは会員になってもらうことも含めて上手に使っていききたい。今年は各種の学生へのアプローチを行っている。その流れで Graduate Scholarships の情報も周知していききたい。

Chair：他のソサイエティでも学生をプロモーションするための様々な施策があると思われる。その情報がソサイエティ内で閉じている状況だと思うので、共有できるような仕組み作りをしたい。

Secretary： JC COC Chair や COC Chair の力を借りて進めていききたい。

7. その他

（資料 7）

・ SIGHT 報告

（資料 7-1）

Tokyo SIGHT Chair から報告があった。これから活動を本格化させるにあたり、10名前後のメンバーで第 1 回ミーティングを行った。SIGHT(Special Interest Group Human on Humanitarian Technology)はテクニカルなプロジェクトを立ち上げる場として各メンバーの専門の情報共有を行い、今後は各メンバーが興味のあるテーマを見つけ、提案し、同時進行でプロジェクトを立ち上げる流れにしたい。メンバーは 10 名程度だが、SIGHT には年齢制限を設けていないので数を増やしていきたい。今後立ち上げるプロジェクトは、Tokyo SIGHT Chair の専門分野が音楽研究であることからバリアフリー楽器の製作進行を計画。SIGHT は非会員でもメンバーになれるので、講演や共催を積極的に行うことでメンバーを増やすのが目標。各メンバーの話題等を共有することで Humanitarian Technology についての勉強ができると考えている。

Engineer Spotlight では SIGHT からは JC SAC Chair が司会となり講演を行った。HAC Chair より、日本の Humanitarian Activity をテーマに、アクションして欲しいと要望があり、連携を取りながら調査することとした。

第2回のミーティングは10/1に開催予定としている。

・ [参考] Region10からのメール連絡一覧

(資料 7-2)

Secretary から、Region10からのメール連絡について、届くメールの数と、メールの展開先について説明があった。

・ 東京支部の25周年記念イベントについて

(資料なし)

Secretary から東京支部25周年記念イベントの開催形式について検討するため、4役で議論した方針内容について説明があった。

2023年に東京支部を含む8つの支部(信越支部は除く)が25周年を迎え、翌年2024年にはJCが25周年、翌々年の2025年には旧東京支部が70周年を迎える。IEEEの周年行事は25,50,75…とクォーターの区切りで祝うのが通例となっており、この状況を鑑みて、SecretaryとTreasurerは東京支部とJCを兼任していることから2023年の東京支部25周年と、旧東京支部70周年は2024年のJC25周年イベントと併せて開催し、2030年の旧東京支部75周年は大いに祝うことを目標にしたい。

今後のスケジュールとしては、信越支部を含む8支部に意向をお伺いし、集約結果を11/12のLRSC会合でJCとしての対応を協議させていただく予定。そこで決定した事項を12/17JC理事会で報告し、2022年からJCも介入したタスクフォースを立ち上げ、イベントの内容、各支部との調整や予算支援等を協議していきたい。

■ 質疑応答 (議題 7)

・ SIGHT 報告 (資料 7-1)について

Secretary : Humanitarian Activity のアクションについて内容の検討があるか。

Tokyo SIGHT Chair : 震災から約10年が経過し、復興のアピールにも2023年のR10 HTCを東北での開催を検討している。

Secretary : 仙台支部が誘致するかは決定していないと思われるが、上手く連携していけたら良い。

・ 東京支部の25周年記念イベントについて (資料なし)について

Chair : 過不足ない対応である。

Past Secretary : これは東京支部の考え方をJCに対して提案することになるのか。

Secretary : 基本的にJCは各支部の意見を尊重する立場。東京支部としての意向をJCに伝えるということで良い。

Past Secretary : 広島支部は既に20周年を開催している。

・ IEEE Day (議題に無し) について

Past Secretary : IEEE Day への東京支部としての関わり方は。

Secretary : 特に東京支部として何か実施することは無いが、10/5 の **Engineer Spotlight** 開催日に **IEEE Day** を周知する。

事務局 : **JC EA** から各支部も含めて **Affinity Group** の方にイベントの情報を提供という形で声掛けをしており、そこから参加者が集まると期待している。

以上